

大村市における総合評価方式の取り組みについて

平成20年12月8日 長崎県大村市契約課

1 はじめに

大村市は長崎県のほぼ中心に位置し、長崎県の空の玄関口である長崎空港や、市内を南北に貫く長崎自動車道といった交通の利便性を生かしながら、大きく発展を続けています。

自治体としての規模は人口約9万人、平成19年度当初予算額が約300億円、建設工事の入札による発注件数が平成19年度223件と全国的には小規模な都市です。

大村市でも、他都市と同様に厳しい財政事情を抱えており、日々財政再建に取り組んでいるところです。

2 総合評価方式導入の経緯

大村市では、平成17年度より入札制度改革計画によって、指名競争入札中心の入札制度から一般競争入札中心の入札制度への転換を図り、平成20年度までに設計額1000万円以上の建設工事を条件付き一般競争入札の対象に拡大してきました。

そしてこの改革によって増大した事務量を軽減するために、平成19年10月に電子入札システムを導入し、一般競争入札は原則すべて電子入札としています。

平成19年度に1件、総合評価落札方式(簡易型)による一般競争入札を試行した際、もっとも問題となったのは行政コストがかかりすぎる点でした。

大村市の建設工事で中心となっている発注の規模は設計額が1千万から2千万円がもっとも多く、1億円を超える工事は、市営住宅の新築工事や下水処理施設等の電気・機械設備以外ではほとんどない状況です。

平成19年度の試行では、設計額2千万円程度の土木工事の発注に約70日をかけており、その間、学識経験者の意見聴取を3回、市の指名委員会に6回の審議を経てようやく落札決定しました。

これでは、これまで行政コストを極力縮小してきた市の入札制度の方針に即していないと判断し、平成20年度には、簡易型から特別簡易型に変更し総合評価落札方式の一般競争入札を6件試行しました。

今回の特色は、学識経験者の意見聴取を1回としたことと、入札方法として事後審査での総合評価方式で電子入札を併用した点です。

この方法で公告から発注までを1ヶ月以内で実施することができました。

特別簡易型であれば、技術評価点を客観的に判断できると考え、技術調書を入札提出期限日までに提出とし、電子入札による開札を実施した後、技術評価点を加算し落札予定者を選定したあとで、資格審査を落札予定者のみ行い落札決定としました。

価格以外の評価項目の配点では、配置予定技術者の能力(6点)と企業の施工能力(10点)とし、中でも企業の施工能力として工事成績表定点の評価を最大(8点)としました。

また、価格評価点と技術評価点のバランスを約3対2とした、加算方式を採用し、技術点に占める価格の割合をわかりやすくし、技術点の低い参加業者に価格競争での受注の可能性を説明し易くしました。

3 総合評価方式の導入結果

平成20年度6件の試行の結果、予定価格の合計119,470千円、落札価格の合計108,277千円、平均落札率は90.63%、入札参加者数は38社から16社で平均30.17社でした。

価格評価で1位の業者以外の落札いわゆる逆転現象は1件も起こりませんでした。技術評価点の8点(最高点は18点)と比較的技術評価の低い業者が落札するケースが2件ありました。

入札参加業者が平均30社と多いため、技術評価点の算出および添付資料とのチェック、またその再確認のための作業に相当の時間を費やしました。

特別簡易型の技術評価項目の設定で、同種工事・類似工事の考え方に発注者と業者に違いがみられたため、今後の設定にはもっと客観的に判断できる項目にしたいと考えています。

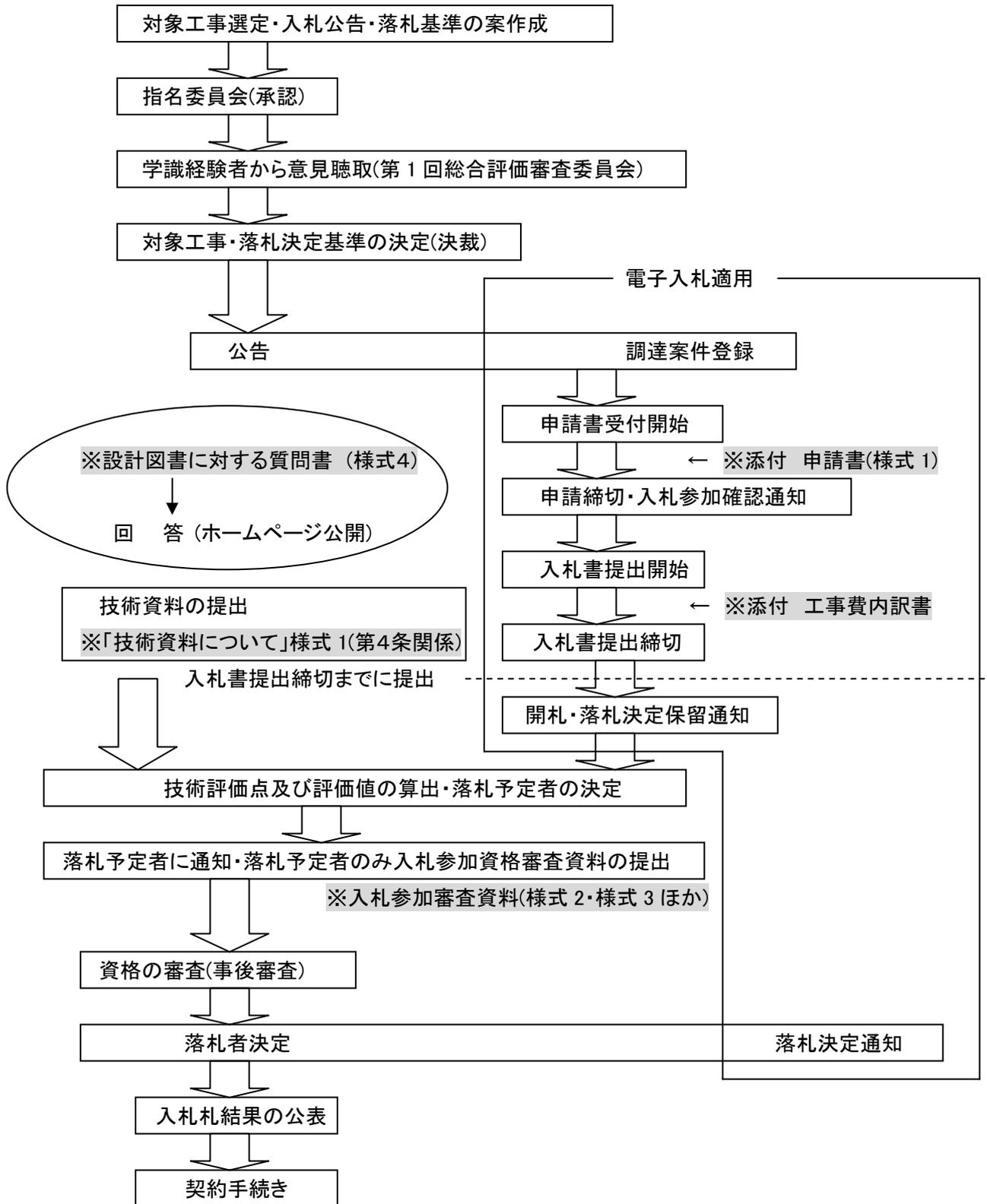
4 最後に

品確法による総合評価落札方式の導入が全国的に拡大しているなかで、大村市のような発注規模の小さい自治体が導入を拡大するためには、特別簡易型の総合評価方式が適当であると判断しています。

今後さらに対象を拡大していくためには、行政コストのできるだけかからない方法として、入札書・工事費内訳書・技術調書の提出はすべて電子入札を利用した方法で実施し、その結果、評価値が1位となった落札予定者1社のみから、技術調書の内容を証明する添付資料と入札参加資格確認資料の提出を求める、完全な形の事後審査方式を採用することで、可能になるのではないかと考えています。

特別簡易型総合評価方式による事後審査型条件付き一般競争入札の実施フロー

大村市契約課



価格以外の評価項目・評価基準(案)

	評価項目	評価内容	評価基準	配点	得点
配置予定技術者の能力	配置予定技術者の施工実績	過去5年度以降における同種(発注工事と同一の工事内容で設定)工事の施工実績	監理技術者として実績あり	3	3/3
			主任技術者として実績あり	2	
		過去5年度以降類似(発注工事と同工種で設定)工事の施工実績	監理技術者として実績あり	1.5	
			主任技術者として実績あり	1	
			実績なし	0	
	保有資格	配置予定技術者が保有する資格	監理技術者	3	3/3
			1級土木施工管理技士又は技術士	2	
			2級土木施工管理技士	1	
その他			0		
企業の施工能力	優良工事表彰	発注年度の大村市優良工事表彰の対象工事を施工した実績	あり	2	2/2
			なし	0	
	企業の施工実績	過去5年度以降における同種又は類似工事を元請として施工した実績	同種工事(発注工事と同一の工事内容で設定)の実績あり	2	2/2
			類似工事(発注工事と同工種で設定)の実績あり	1	
			実績なし	0	
	工事成績の評定	直近2ヵ年度以前までに完成した大村市発注の同工種の工事成績評定点のうち2件の平均	2件提出された工事成績評定点の平均点が80点以上	8	8/8
			2件提出された工事成績評定点の平均点が75点～80点未満	5	
			2件提出された工事成績評定点の平均点が70点～75点未満	2	
			2件提出された工事成績評定点の平均点が70点未満、又は2件未満の提出	0	
	安全管理・経営管理の状況	提出締切日前1年間において大村市の指名停止等の状況	なし	0	0/-3
注意の喚起あり			-1		
警告あり			-2		
指名停止あり			-3		
合計点(技術評価点)				18	

総合評価落札(加算方式)計算方法

評価値(加算方式)=価格評価点+技術評価点

価格評価点 : 0~30点 $100 \times (1 - \text{入札価格} / \text{予定価格})$

技術評価点 : 最高点 18点